

研究結果報告書

研究結果

本研究は、江戸時代の藩校・私塾の教育実態を中心に、武士の思想形成に関する考察を試みたものである。2012年4月から2013年9月までの研究期間中、5回にわたり現地調査を行い、数多くの史料及び文献を入手した。

本研究では儒教思想が伝播される場としての教育機関に着目し、幕府や藩の教育機関については、東京の湯島聖堂、福島県会津若松市の会津藩校日新館、岡山県備前市の閑谷学校、栃木県足利市の足利学校を、私塾については、大分県日田市の咸宜園、山口県萩市の松下村塾及び大阪市の適塾等をそれぞれ訪問し、現地調査を実施した。各訪問先で聴取した内容や入手した各種資料を精査/分析した結果、以下の点が明らかになった。

- 江戸時代における藩校及び私塾は、教育の場として重要な役割を果たしている。
- 藩校の教育では、漢籍の習得などによって儒教精神が徹底的に植え付けられた。一方、私塾では、塾長の個性が色濃く反映され、中国の古典のほかに、生活に密着した基礎教育や、医学なども教育された。
- 江戸時代の教育は幕藩体制の維持に大いに役立った。また、江戸時代の教育の普及が、明治維新以降の急速な近代化の基礎となったと言えよう。
- 西洋においては、民衆の思惟様式・行動様式の根底にはキリスト教の精神が貫かれている。一方、日本の背景にあるのは、倫理的忠節を強調する中国の儒教思想であった。日本にもたらされた儒教思想は江戸時代に教育という手段を通じて、武士階級を中心に、人間の感情様式など日本人の精神形成に大きな影響を与え、それが日本の近代化に少なからず影響を及ぼした。幕末に藩校や私塾といった教育機関で学んだ武士たちが明治維新以降大いに活躍したことがその事実を物語っている。江戸時代に培われた国民の高い教育レベルが近代化を進めていく上で重要な要因であったことが、本研究の考察により明確になったものと考えられる。

今回の研究結果を踏まえ、今後は、今回の現地調査で入手した各種史料及び文献を更に読み解き且つ分析し、武士教育に関する研究を更に深化させていきたい。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名：江戸時代における藩校教育—会津藩・日新館を例として—

発表者：林孟蓉

会議名：2013年中国文化大学日本語学科国際学術研究会

日時：2013年5月18日

場所：台湾台北市中国文化大学曉峰紀念館

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名：江戸時代における藩校教育—会津藩・日新館を例として—

発表者：林孟蓉

論文掲載誌：『2013年中国文化大学日本語学科国際学術研究会 論文集』

掲載時期：2013年5月18日

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)